

2010 年度 小委員会活動成果報告

(2011 年 2 月 18 日作成)

小委員会名	文化施設小委員会	主 査 名：坂口大洋 就任年月：2010 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (施設計画運営委員会)	委員長名：松村秀一 主 査 名：大原一興
設 置 期 間	2010 年 4 月 ～ 2012 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・文化施設(劇場・ホール、美術館・博物館)の調査及び計画指針を研究する ・文化施設に関する最新課題とこれまでの委員会活動の成果を集約し、出版事業により広く知見を公開する。 ・近年の文化施設の見学会及び公開研究会などにより話題共有と成果の公開を行う。 	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：あり 文化施設小委員会：主査：坂口大洋(東北大学) 幹事：大月淳(三重大学) 佐藤慎也(日本大学) 委員 井口直巳(井口直巳建築設計事務所) 上西明(上西建築都市設計事務所) 浦部智義(日本大学) 大原一興(横浜国立大学) 勝又英明(東京都市大学) 小林徹也(シアターワークショップ) 谷川大輔(谷川大輔建築設計事務所) 永井久夫(竹中工務店) 長谷川祥久(香山壽夫建築研究所) 早川典子(東京都歴史文化財団) 諸隈紅花(日建設計)	
設置 WG (WG 名：目的)	「劇場・ホール WG」劇場・ホール施設の利用状況、計画論などの調査研究と義劇場技術を中心とした出版事業の企画検討 「ミュージアム WG」美術館・博物館の課題の整理、見学会及びシンポジウム等の企画・実施	
2010 年度予算	190,000 円	ホームページ公開の有無：有り 委員会 HP アドレス： http://news-sv. aij. or. jp/keikakusub/s19/

項 目	自己評価
委員会開催数	委員会 7 回 WG8 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	1. 「劇場空間への誘い」
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	1. 「創造都市時代における新しい公共空間の可能性」 参加者数 80 名 (資料名) 同上
対外的意見表明・パブリックコメント等	1. 当委員会は、計画委員会の中で文化施設を研究対象としています。委員は大学、研究所の建築計画、アートマネジメント、音響等の研究者、設計事務所、建設会社の設計者、劇場コンサルタント等、多様なメンバーを構成し、研究と実践の両面から調査研究と、見学会、研究会、出版事業、HP などにより、研究成果を対外的に積極的に公開しています。

<p style="text-align: center;">目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>1. 本年度は大きく「劇場空間への誘い」(鹿島出版会)の刊行事業と建築学会大会(富山)における大会研究集会(建築計画部門 PD)の開催を企画・実施、これまでの研究成果の公開とし重要な到達点であった。 大船渡市民会館と神奈川芸術劇場の見学会と関連レクチャーを企画・実施し、最新の文化施設の課題と可能性を確認した。</p> <p>2. これまでの活動を更に発展させるために、今年度からミュージアム WG を設立し、組織的にも文化施設全体の課題を対象として調査研究が行える組織となった。</p> <p>3. 今年度から具体的に委員会連携を積極的に行い、具体的には教育施設小委員会との合同見学会、東北支部建築計画部会との共同主催事業などの企画・実施を行った。</p> <p>4. 委員会 HP を開設し、委員会活動などの関連情報を広く公開できるようになった。</p>
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<p>1. 現在都市部の事例及び課題が中心となりつつあるので、地方都市における公共文化施設の課題を抽出し、将来的な人口減少社会へのマネジメント手法の検討などの地域の課題への取り組み。</p> <p>2. 海外の状況等の国際的な調査研究展開への検討。</p> <p>3. 各種出版事業の企画の検討と具体化。</p>

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。